

腰椎椎間板ヘルニア治療薬「ヘルニコア」の説明書

「ヘルニコア」は椎間板の中の圧力を下げてヘルニアの症状を改善させる注射薬です。使用開始にあたっては、厳密に適応を検討する必要があり、事前の診察と MRI 撮影が必須です。

事前の診察と MRI 検査が必須です。

ヘルニアには大きく分けて 4 通りのタイプがありますが、その中でも「後縦靱帯下脱出ヘルニア」だけに使用することができます。

他の保存的加療で効果が無いときにだけ使用できます

神経根症状（一側の下肢症状の方）の方は投与できますが、馬尾症状（両下肢のしびれ感、排尿障害がある方）には使用できません。

高度に変性した椎間板、すべりを生じている状態、ヘルニアが多くある方、骨粗鬆症・リウマチの方、20 歳以下、70 歳以上の方、妊娠中・授乳中の方への効果と安全性は確認されていないため、投与は困難です。

使用する回数は生涯 1 回だけでとされています。

方法：

1. 事前に点滴を始めます
2. 透視台の上で、斜め、もしくは腹這いで寝ていただき、皮膚に麻酔をします
3. 針を進めて椎間板の中に針が入っている事が確認できたら注射をして終了します
4. 注射を終わった後、2 時間程度病院で休んで頂く必要があります。
5. 注射をした当日は入浴を避けて下さい
6. 注射後 1 週間は重いものを持たない（5kg 以下）、強く腰をひねる動作を避けるようにしてください。
7. 少なくとも 3 ヶ月後に投与による効果を判定しますので、こやまクリニックを再診してください

効果について

下肢痛は 13 週間で平均 49.5%（プラセボ 34.3%）改善する、とされていますが、注射の効果がどれくらいでなのかは個人差があります。注射直後から効果があるわけではない事にご注意ください。

副作用について

針が神経にあたる可能性が僅かですがあります。その際は一過性に放散痛を生じる可能性があります。

薬のアレルギーを生じる可能性が僅かですがあり（2.6%）、その場合は適切な処置が必要に

なります。

経過中に腰痛（22.3%）、下肢痛（4.8%）を生じることがあり、保存的加療が必要になることがあります。

一部に、椎間板自体が不安定になったり、骨に変化を生じる危険性（～23%）がありますが、特に加療は必要ありません。

手術を完全に回避できる方法ではないことをご了解ください。

神戸ほくと病院 脊椎センター 高田徹